

妙国寺寺報

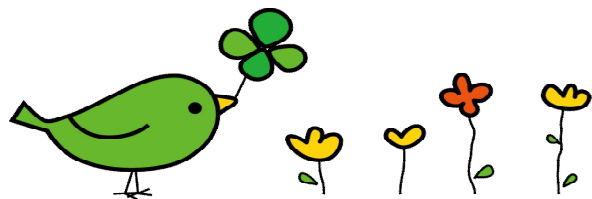
平成二十一年十一月発行 第十五号

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
おそらはちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面（じべた）を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。



「金子 みずず」
明治36年（1903年）山口県大津郡仙崎村（今の長門市）に生まれる。大正末期、すぐれた作品を発表し、西條八十に『若き童謡詩人の巨星』とまで称賛されながら、昭和5年（1930年）26歳の若さで世を去った。没後その作品は散逸し、幻の童謡詩人と語り継がれるばかりとなったが、童謡詩人・矢崎節夫の長年の努力により遺稿集が見つかり、出版された。



これは、明治36年生まれ、大正末期にすぐれた作品を発表し、26歳という若さでこの世を去った金子みずずさんという童謡詩人の方の詩です。
「みんなちがつて、みんないい。」この言葉、頭ではわかっている、すぐ物事の優劣を決めたがる私達には難しいものですね・・・。

法華経の方便品第二には「諸法実相」という教えが説かれています。「この世の中で、あらゆるものすべてが真実のことを示すために存在している。世の中にあるものはすべて理由があつて、みな存在している。世の中に不必要なものなどない。」という教えです。私たちは何かとすぐないものねだりして、人を羨んだり、優越感を感じたり、メディアでは盛んに勝ち組、負け組だの揶揄したりして誰かと比べあっています。そんな私たちにお釈迦さまは、「そんな価値観を持つのはやめなさい。この世に存在しているものはすべてそのまま、そのままが素晴らしいのだよ・・・」とおっしゃっているのです。つまりは、みんなちがつて、いるのが当然だし、そこが素晴らしいじゃないかってことですね。

母親と子どものよくある会話の中で、「○○ちゃんの家は○○を買ってもらったんだって！いいな流行ってるし、うちも買ってよ」、「よそはよそ、うちはおうちでしょ」というよくあるやり取り、子どものころはなんとなく理不尽さを感じていましたが、今になってみるとあながち間違ではないように思えます。

はてさて、私たちが何かを判断する時に使用する自らの価値観・・・それは本当に正しいものでしょうか？

お釈迦様は常に私たちに

「その価値観は本当に正しいのですか？狭い世間の価値観で良し悪しを判断して流されてはいけませんよ。価値観をもっと幅広く持ちなさい。もっと大きな視野で物事を見なさい。」と訴えかけられているのです。

義専

*綿帽子の由来

毎年11月8日のお会式から仏壇や本堂の日蓮聖人のお像に綿帽子をかけて冬支度をします。これにはいったいどのような由来があるのでしょうか？

文永元年八月に故郷房州に戻り、母を見舞った日蓮聖人は、十一月には工藤吉隆の元に招かれました。その道中、小松原で地頭の東條影信らの手勢に襲われました。熱心な念仏行者であった東條影信は、師の道善坊にそむいてまで熱心に法華経を説く日蓮聖人に対して深い敵意を抱いていたのです。これは、本堂の日蓮上人御一代記の絵にも描かれています、四大法難のひとつ「小松原の法難」と呼ばれています。

一行は必死に防戦しましたが、お弟子の鏡忍坊、工藤吉隆らは討ち死にし、聖人ご自身も影信に切り付けられ、額に三寸ほどの疵をうけてしまわれました。そして奇蹟的に鬼子母神の御加護で救われた日蓮聖人は、夜道を逃れ、小湊山の近くに辿りつかれました。やがて、谷間の水で疵を洗い、経を読みながら、身を隠した岩窟の砂を疵口にぬって血を止めたということです。その翌朝、額に深い疵をおって岩窟に隠れている聖人の姿を見かけた「おいち」という老婆が、とっさに自らかぶっていた綿を聖人に差し上げたということです。

これが綿帽子の由来ですが、寒くなると痛んだであろう聖人を偲んで、秋のお会式から4月8日のお釈迦さまの誕生日まで聖人のお像に綿帽子をかぶせるようになったのです。

・行事予定

*十一月八日 十一時〜
・月例鬼子母神祭り・・・御祈祷・副住職法話・おときがございませす。

*十一月三十一日 十一時四十五分〜

・一年の感謝と、来年度の皆様のご多幸を祈り、水行式と、年明けとともに、新年初参りを致します。一年の穢れを払い、良き年を迎えられるよう一緒に水行をされる方を募集致します。どうぞ、お気軽にお申し出ください。お屠蘇など用意しております。初参りはお寺にどうぞ。

*一月八日 十一時〜

・新春特別祈祷会・・・数名の日蓮宗祈祷師によります特別加持祈祷が行われ、申しこまれた皆様に祈念札の授与がございませす。

妙国寺ホームページアドレス

<http://www.myokokuji.info>

メールアドレスはこちら

Gisyun-gisen@myokokuji.info

検索サイトで「熊本 妙国寺」でもご覧になれます。